今も色濃く残っているわきゃシマの文化

～ショチョガマ・平瀬マンカイ～

秋名平瀬マンカイ保存会会員　重田　美咲

1　はじめに

私の住む龍郷町秋名・幾里集落には，奄美が琉球王国の版図であった那覇世(なはんゆ)の頃から伝承されている行事があります。それはショチョガマの祭りと平瀬マンカイの祭りからなる秋名アラセツ行事です。昭和 60 年には，国の重要無形民俗文化財として指定を受けています。行事の保護伝承には，秋名平瀬マンカイ保存会がその重責を担っております。

2　経緯

長く受け継がれてきた秋名アラセツ行事ですが，太平洋戦争や戦後の米軍信託統治下の時期にいつしか途絶えてしまいました。それを故・窪田正徳氏（秋名平瀬マンカイ保存会初代会長）が中心になり，昭和 35 年に秋幾青壮年団や婦人会が秋名小学校後援のもとで，秋名平瀬マンカイ保存会を設立しました。秋名平瀬マンカイ保存会は，昭和 35 年９月 25 日に秋名アラセツ行事を復活させました。その後，毎年この秋名アラセツ行事を実施し，昭和 46 年２月 20 日に龍郷村の無形民俗文化財に，昭和 57 年５月７日には鹿児島県の無形民俗文化財に指定され，昭和 60 年１月 12 日に国の重要無形民俗文化財指定を受けて現在に至っています。

3　概要

秋名アラセツ行事は，秋名・幾里集落に古くから伝わる稲作儀礼，五穀豊穣を祈願する祭儀です。秋名アラセツ行事の開催日は，旧暦八月の初乙（きのと）のツカリと翌日の初丙（ひのえ）のアラセツになります。ツカリ日には，家屋の表座敷の縁側にゴザを敷いてお供え物を供えて高祖加那志（こうそがなし）を迎えて，屋敷内の高祖加那志に祭り詞を唱えて祈ります。

ショチョガマの祭りは，アラセツ日の早朝の午前４時頃，集落や田袋が見下ろせる中里の山の中腹に設けられたショチョガマ（ワラ葺の片屋根の小屋）に踊り手が集まり，屋根の上で太鼓を打ち鳴らし祭りを開始します。そして，ショチョガマの屋根前方の左右に置かれたワラ枕の祭壇にお供え物をし，神役のグージが祭り詞を唱えて豊作祈願を行います。その後ショチョガマの唄を歌い，「ヨラ・メラ」の掛け声とともに左右に屋根を揺らし

【ショチョガマ祭り】

て，日が昇る直前にショチョガマを倒します。最後は倒れた屋根の上で，輪になって八月踊りをしてショチョガマ祭りは終わります。

平瀬マンカイの祭りは，アラセツ日の午後４時頃に秋名海岸の２つの岩礁の際場で行われます。沖の方の岩礁の神平瀬では，５名のノロ役の女性が上がり，もう一方の女童平瀬（めらべひらせ）には，ノロを補佐するシドワキ・ウッカム・グージの役職の男性３名と女性４名が上がります。神平瀬と女童平瀬との間でマンカイの唄の掛け合いが行われて，海の彼方のネリヤカナヤより稲魂（にゃーだま）を招いて五穀豊穣を祈願します。それが終わると神平瀬では，ノロ役が合掌してネリヤカナヤに向かって礼拝して祭りが終了します。その後，岩礁の祭場から浜に下りて八月踊りを行います。

【平瀬マンカイ祭り】

４　おわりに

このように伝統行事の継承に取り組んでいるところですが，昔のように地元民だけでこのショチョガマの作成作業は困難を伴います。しかし，現在ではこの祭りを大切に思ってくださる，集落以外の方もボランティアとしてショチョガマ作りに協力してくださり，また，地元に住んでいる先輩方も作業技術を若い世代に教え，それを一生懸命学ぼうとする若い世代の様子が見られます。これらの行事は，単なる伝統行事ではなく，住民の間に結いの心，助けあいの心とともに愛郷心が育まれてきている事を実感させます。

この文化を次世代につなごうと長年尽力されてきた，保存会会長の窪田圭喜さんが令和７年１月３日に亡くなりました。保存会委員一同，大きな存在を亡くしてしまい，今後，不安な気持ちも無いとは言い切れませんが，今までこの集落に残ってきた文化を，途絶えさせることなく，今後もつないでいく努力をしていきたいと思います。

「奄美パーク夏祭り～シマジマだより～喜界島」に出演して

喜界町文化協会会長　外内　千里

1　はじめに

奄美パーク事業課から町の担当職員を通じて，パークのイベントの出演依頼を受けたのは７月末でした。イベントの概要は，奄美群島の観光拠点施設である奄美パークは，多くの観光客が訪れる夏休みに毎年一つの島にスポットをあて，島唄，踊り等の郷土芸能を紹介し，併せて特産品を販売し，奄美群島の魅力を紹介するもので，今年度は喜界島にスポットをあてるものでした。喜界町の夏祭りの舞台出演の演出の段取りを終えてほっとしておりました矢先で，しかも開催日は８月 17 日（土）で，喜界島ではお盆（旧暦）のなか日であり，出演は難しいと思いましたが，かねてより離島であり，島外での活動の機会が少ない文化協会加盟団体に絶好の機会であると思い，出演希望団体を募りましたら６団体が承諾してくれました。出演時間は午後１時 30 分から３時 30 分までの１時間 30 分が舞台出演，30 分が喜界島観光物産協会提供の特産品の抽選会で無事舞台を務めることが出来ました。

2　舞台出演（プログラム）

⑴　手話サークルミミ　（手話）	（曲名）ルリカケス
⑵　アヌエヌエス・喜界フラ（フラダンス）	（曲名）トゥトゥキ・アイノカタチ
⑶　原田幸歩　（島唄）	（曲名）むちゃかな節・伊実久ばしゃ山節
⑷　喜界島太鼓　（和太鼓）	（曲名）踊り打ち・遊歩輝・早打ち
⑸　喜界フラ　（フラダンス）	（曲名）ウェナ・レイコエレ・モロカイジャム
⑹　喜界島うるまエイサー　（エイサー）	（曲名）仲順流り・あやぐ・唐船ドーイ
⑺　奄美芸能島唄研究会　（島唄）	（曲名）朝花節・豊年節・稲すり節
⑻　東郷さやか　（島唄）	（曲名）くるだんど節・塩道長浜節
⑼　続六調太鼓　（六調）	（曲名）六調
⑽　抽選会　（喜界島特産品）	

3　行程

当初，日程の関係上，出演団体全員での飛行機での移動の予定を段取りしていましたが，出演者が 46 名となり，太鼓の輸送のため輸送用のトラックを手配しなければならなくなったため，十分な予算の確保ができず船での移動となりました。当日の朝の船に乗船し，夕方の船で帰るハードなスケジュールとなりましたが，奄美パーク担当者が港からパークの往復のバスを手配してくださ

り，無事務めることが出来ました。

4　成果

手話，フラダンス，太鼓，エイサー，島唄，六調と舞台と会場が一つとなり盛り上がったことが大変うれしく，パークとの事務的なやり取りや移動の手配等大変ではありましたが，会員の活動の充実をサポートが出来ました。今後の島外での舞台出演に機会があれば努めたいとの思いでした。

（喜界島太鼓）

（喜界島うるまエイサー）

（喜界島出演者による六調）

ダンススクール CORE　徳之島クラス

ダンススクール CORE 代表　中　直美

1　はじめに

2000 年に徳之島町にて発足したダンススクール，現在は奄美市を拠点にして活動している。

2024 年４月より，休止していた徳之島クラスを復活させ地域での活動を活発にしている。クラス編成はキッズから中高年齢までと幅広く，初心者も無理せず楽しめるクラスとなっている。2025 年は設立 25 年という節目で徳之島にてイベントを行う予定。

2　趣旨

音楽に合わせて仲間と一緒に身体を動かす楽しさを年齢問わず知ってほしい。子供はもちろん特に中高齢者にとって生きがいになるような楽しい時間，場所，仲間づくりの一助となれるよう活動している。毎年奄美チームとの合同発表公演もあり，各チームが協力しあってイベントを成功させている。

3　概要

会員　14 名　（徳之島クラス）　33 名（奄美クラス）

レッスン日	キッズクラス	毎週土曜日	18：00～
	リズムクラス	〃	19：00～
	スペシャルクラス	〃	20：00～

場所　亀津フラスタジオ（レンタルスタジオ）

4　活動組織

・スペシャルクラス担当　ナオミ
・リズムクラス担当　TOYOMI
・キッズクラス担当　SHiZUKA

5　活動計画

各種地域イベント出演（黒糖まつり，JA まつり，文化会館主催イベント）
2025 年 11 月　第 18 回発表公演 in 徳之島

かごしま国体閉会式オープニングプログラム

2023 年ダンススクール CORE 定期発表会

6　活動状況＆成果と今後の課題

2023 年にかごしま国体閉会式オープニングプログラムに出演できたことは，これまでダンススクールを継続できていたことと，障がいをもったメンバーのクラスの活動を認めたいただいたことと感謝している。

奄美チームでは，2025 年２月には大島特別支援学校高等部の芸術鑑賞事業授業に出演依頼もある。徳之島チームも今後幅広く活動をしていきたい。

すでに CORE はプロのダンサーも輩出しており，現在の指導者もその一人。

「夢を叶え，またその先の夢をつないでいける場所」でもあり続けたい。

7　終わりに

ダンススクール CORE は 25 年という長い時間を共有できている初期メンバーの仲間が礎である。ダンスが好きなだけでなく，ここ「ダンススクール CORE」を愛してくれて，生活や人生の一部としてくれているのが伝わる。

そんなかけがえのない無形のパワーの伝承をこれからも続けていきたい。

1 年 1 年の積み重ね，1 回 1 回の発表公演の継続，少しずつ変化をしながらも，変わらないものを心の核（CORE）にメンバーとつながっていく。

それがダンススクール CORE！！